



スコットランドの風

第2回 NPO 法人日本スコットランド交流協会総会開催

2014年6月20日(金)イギリス大使館(新館ニューホール)にて第2回 NPO 法人日本スコットランド交流協会の総会が出席者56人、委任状56人、計112人で定款第27条項を満たし開催されました。今回は任意団体スコットランド交流協会解散の承認後、NPO 法人日本スコットランド交流協会総会が行われ、25年度の事業報告及び26年度事業計画及び活動予算等審議事項が次々承認されていきました。また、青森公立大学の香取真理教授にご出席いただく中、4番目の支部として香取薫学長を支部長とする東北支部の開設が承認されました。さらに在エディンバラ日本国総領事の北岡元氏がJSAの名誉会員を引き受けて下さるという報告もあり、設立支部の増加に加え、多岐にわたる分野の方々にご参加いただき、基盤のしっかりした団体としての広がりを見せていました。関会長から25年度の第1回奨学生の帰国報告会を来年1月に予定しており、今年は日本からScotlandへ行く人々の支援に加え、Scotlandから日本に来る人々の支援をしたいという新しい活動への決意も表明されました。昨年9月の任意団体JSAとしての第1回総会から8か月後にNPO 法人JSAとして第2回総会を開催できたことは皆様の力強いご協力とご支援の賜物であり、当協会の主たる目的「Scotlandと日本の懸け橋」が着実に築かれていることを実感できるものでした。



懇親会には一般の方々も加わり90名以上の方にご参加いただきました。開会を告げるに相応しいバグパイプを杉山氏、山形氏両理事がスコティッシュ顔負けの凛々しいキルト姿で「スコットランド・ザ・ブレイブ」を演奏し、まるでスコットランドにいるかのようなムード漂うスタートとなりました。開会の辞は、SCOTLAND開発庁日本代表でJSA大使でもあるスティーブン・ベーカー氏。Scotlandと日本が将来、経済を含め様々な分野で共に発展し、更に強い関係を築けるようJSAが中心となって盛り上げていきましょう！と非常に力強いご挨拶を頂きました。その後、Gest speakerのBritish Council駐日代表 ジェフ・ストリーター氏からは、Scotlandの教育システムは英国の中でも他とは異なり、それにより優れた大学組織が整備され、いかに優秀な人材を輩出してきたか、またScotlandはバレエや演劇など文化活動を大切にする国民であることも言及されました。乾杯は山梨学院大学教授マイケル・ラクトリン氏に音頭を取って頂き、JSAが将来に渡り高い志と共に益々発展していくことを祈って歓談へ。中盤には、着物をお召しになった岩田玲子先生と鈴木瑞穂さんによるお箏の演奏が行われ、改めて日本の伝統文化を感じるひと時となりました。引き続き、プロのバイオリニストとして活躍されている山内達哉氏と岩田先生のお箏による共演があり、洋和二つの個性ある楽器から奏でられる繊細な音のハーモニーは会場の皆さんを魅了しました。参加者同士の交流が深まる中、理事の香川氏により、NPO 法人JSAの更なる発展を祈る閉会の辞が述べられ、終始、スコットランドを感じながら華やかで楽しいムードに包まれた懇親会も幕を閉じました。

事務局 柴田文子・齊藤七生



関会長



山内氏



岩田先生

ベーカー氏



山形氏

杉山氏



ストリーター氏

会長 挨拶

会長 関妙子

Scotland 独立を問う住民投票（9月18日）の報道が盛んになる中で、JSAの本部にも多くのメディアからの問い合わせがありました。Scotland はどのような国か、文化は、歴史は、と質問は多岐に渡りましたが、丁寧な対応を心掛け正確な情報を伝える努力をしました。結果、新聞3紙に当協会の紹介記事が掲載され、NHKは協会本部に撮影とインタビューに訪れました。会員の斎藤さんには撮影のためにキルト衣装をご提供いただき、関西支部では鵜野さん、モードさん、リンゼイさんも取材に協力されました。今回 Scotland に関しては最も適切な資料を提供できる協会として認知されたと信じています。私自身8月中 Scotland に滞在していたので、Yes と No が拮抗した現地の雰囲気を伝えることができたのは幸いでした。投票の結果はともあれ、Scotland を日本の方々に知っていただく良い機会となったと思います。

JSA 設立以来3年となり、さらに多くの方々が協会に参加され、活動の幅も広がっています。来年も JSA 主催での第3回 Japanese Week（スターリング大学にて、2015年2月25-27日）開催が決まりました。今回は JSA 名誉会員の在エディンバラ日本国総領事の北岡氏が Opening の Speech をしてくださり、さらに日本料理のクラスも後援していただきます。10月5日には若い会員の方々中心に、初めて Highland Games に参加しました。本協会の活動が多岐に渡り、重層的になるのは本当に喜ばしいことです。皆さまと一緒にさらに魅力的な協会にしていきたいと思っております。



写真：左から片桐氏、関会長、北岡氏、ケイト氏

これは「敗北」では無い！独立を巡る住民投票の顛末

JSA 名誉会員・在エディンバラ日本国総領事 北岡元氏

9月18日の夕刻。エディンバラ総領事館では、徹夜の準備が進行中。300年ぶりに独立を回復するかもしれないスコットランド。その住民投票の結果を見守るためである。選挙分析の専門家のカーティス教授の直前の分析がもたらされた。「直近の7つの世論調査のいずれでも、賛成派が反対派に遅れをとっている。賛成派勝利の可能性は、今や極めて低くなった」。東京の外務本省と、関連する日本の在外公館に電報で連絡。テレビ討論で反対派をやり込めたサモンド首相。その後、賛成派が反対派を追い越す世論調査まで出たが、この流れは直前に失速したので「やはり」という感じがした。それでも「伯仲はするかな」と思っていたが、賛成は45%。自分の予想を下回った。

昨秋の着任以来、100人以上の識者にインタビューする過程で、何度も聞かされた「キャニー」という言葉が思い浮かんで来た。「重要な決断をする直前になると、急に慎重に計算し始める」というスコットランド人の性向を指す。

しかし、そこは誇り高く情熱的なスコットランド人。独立賛成派に敗北感はなく無い。独立運動をリードして来た SNP の党員は倍増。自民党を追い越し第3の政党に躍進。

「こうなったら英国の中で、とことん権限を拡張してやる！」と意気軒昂。頭で慎重に計算しつつ、心は熱い。スコットランド人の真骨頂を、とくと拝見させて頂いた。

新理事挨拶

東北支部 香取薫氏

直ぐには JSA の諸先輩方のように十分な活動は出来ないとは思いますが、JSA 発展のために、出来る限りの貢献をさせて頂く所存です。どうぞ宜しくお願い致します。



中国支部 杉山憲司氏

ハイランド・バグパイプの演奏を通じてスコットランドの文化を伝え、その魅力の身近さをたくさんの方々に知って頂く事を中心に、JSA の活動を支えて行ければと考えております。よろしくお願い致します。



ウォーレスの魂

副会長 山口謙治

打ち砕かれたのは、岩ではなかった
打ち砕かれたのは、征服しようとする野心だった
打ち砕かれたのは、魂ではなかった
打ち砕かれたのは、従属を強いる力だった

ウォーレスの血は大地に沁み渡り、不屈の魂を育てた
大地はさざめき、虐げられようとする者たちの心を揺らす
冬の嵐は絶え間なく吹きすさび、自由と平等の尊さを叫ぶ
美空は、高々と人間の尊厳を指し示す

晒されたのは、引き裂かれたウォーレスの体ではなかった
晒されたのは、新たな魂の誕生だった
晒されたのは、反抗への恐怖ではなかった
晒されたのは、新たな魂の絆と誓いだった

ウォーレスは、証をたてるために死んだ
ウォーレスの魂はスコットランドを離れ
世界中の奥歯を噛みしめる者たちの魂となった

語り伝えるがいい
人は何のために生き、何のために戦い、何のために死ぬかを
草が、花が、山が、川が、ウォーレスの魂を語る

打ち砕かれたのは、岩ではなかった
打ち砕かれたのは、征服しようとする野心だった
打ち砕かれたのは、魂ではなかった
打ち砕かれたのは、従属を強いる力だった

2014年3月23日 スコットランドにて

Scottish Highland Games 特集 ～関東&関西～

東京本部

今年で開催 32 回目になるハイランドゲームズ（東京）が 2014 年 10 月 5 日に神田外語大学にて開催されました。12 人の JSA メンバーで Stirling 大学グッズ、ショートブレッドと紅茶の販売を計画しており、万全に準備をして参加しました。ただ歓迎を受けすぎたのか、天気はスコティッシュウェザーを越えた大荒れに。ヘビーゲームズは中止となりましたが、ダンススクエアにてバグパイプバンドによる「Scotland The Brave」の演奏と、ステップが特徴的で可愛いスコティッシュダンスを観賞しました。バグパイプの音色を聞く度に、メンバーのほとんどがスコットランドの街並みや風景が懐かしいと言っており、ランチをしながらスコットランドでの思い出話を語りました。お昼過ぎで撤退したものの、来年への意気込みがより一層増したと共にメンバー同士の団結力もさらに深まりました。



写真上：今回参加した JSA 関東メンバー。
写真左：スコティッシュダンス。楽しくみんなで踊れそうところがとてもいいですね。
写真右：バグパイプバンドによる演奏。いつ聞いてもいい曲です。

関西支部

2014 年 9 月 21 日に神戸・三宮の磯上公園で、関西ハイランド・ゲームズが英国副総領事をお招きして開催されました。JSA は会員 12 名でチーム競技に参加。バグパイプやハイランドダンスを初め、綱引き、二人三脚、枕たたき、長靴飛ばし等に大活躍しました。

特に綱引きでは決勝戦まで残ったものの、若い相手チームの持久戦に残念ながら涙をのみました。またブースにも出店し、会員が協力してスコーンとクッキーのほか土産品などを販売しました。会場ではスコットランド産ビールやフィッシュアンドチップスも販売され、スコットランドのお祭りの雰囲気を盛り上げていました。



写真右上：綱引き。JSA メンバー大健闘！
写真左：ちびっ子たちのハイランドダンス。
写真右：枕たたき。本気です！

JSA 奨学金生のご紹介

2014 年度の名誉ある奨学金生に選抜された濱田里美さんは、現在、The University of Edinburgh でイギリス中世の文学と文化 (MSc Medieval Literatures and Cultures) の研究中です。日本では目に出来ない実際の中世の写本や資料から多くの成果を得られることを JSA 一同期待しております。

JSA 会員紹介

デザイナー
野間忠博



野間忠博氏は協会のシンボルマークをデザインされました。桜（日本）がアザミ（スコットランド）を支えている様子が会の目的を端的にあらわしていると同時に、美しいカラーと形で広く会員の方々に愛されているデザインです。JSA の創立メンバーとして協会の理事・監事を歴任され、パンフレット作成、さらには第 1 回、第 2 回のニューズレターの編集長として指揮をとられました。武蔵野美術大学を卒業後、グラフィックデザイナーとして、ワルシャワ国際ビエンナーレ展、日刊工業新聞社賞、日経産業新聞社賞、富士通・電通広告賞など数々の賞を受賞され、コニカ、伊勢丹、トヨタ、ポーラ、大洋漁業、タイ航空、ヤマハなど数多くの会社の広告デザインを手掛けられてきています。2003 年にノーマデザインを設立、現在も代表として活躍中です。

木村兄弟洋服店
木村英利



父の始めた洋服仕立て販売業を継いで 47 年。手作りの技術も、もう必要なくなったなと思っていたところへ先の大震災。あらためて若い人のために手作りの技術を残しておきたいとの思いがわき、機会があるごとに伝えていきます。

キルトは友人の為に作り始め、自分用にも作っています。そんな縁で、木村さんとの交流もできました。これからも私にできることを伝えていきたいと思っています。

JSA 東北

去る2014年8月24日、青森公立大学で開催されました「地域文化教育学会」(AREC: Association for Regional Education and Culture)第4回全国大会にて、『スコットランド交流協会東北支部設立について』というタイトルで、東北支部事務局担当 青森公立大学教授 香取真理氏より特別発表が行われました。内容としては、「スコットランドの歴史と分離独立活動」「スコットランドと近代日本」などに焦点を絞ったお話でした。当日は、学会員の他に、学生、一般企業の方、民間の方も数多く御参加下さりました。スコットランドに興味を持たれた方も多く、発表後活発な質疑応答が行われていました。

また、東北支部会員、藤井和弘教授(青森公立大学)も同学会で『組織研究方法論の近年の動向: 地域活性化論への適応可能性』という論題で特別講演を行いました。



JSA 東京

東京本部では、毎月第2週(土)の Discussion in English (新宿区) 9月のテーマは「スコットランド独立選挙について」、第3週(土)の英会話教室(大田区)色々な場面の会話を練習(11月からはさらにパワーアップ)が継続的に行われています。そして奇数月には「スコッチウイスキーを楽しむ会」も開催されています。皆様も好きな活動から参加され、スコットランドを知り、楽しい仲間を増やして下さい。さらに2015年1月には講演会及びJSA第1回奨学生卒業報告を予定しています。



JSA 関西

7月20日、大阪・難波で関西支部総会を開き、会員を対象に活動報告等を行いました。パーティでは、KSAS(Kansai St Andrew's Society) ChieftainのMs Fraser、関西ウェールズ会の廣野さん、そしてLady Maud Nomiyaを来賓にお招きし、関会長にご出席頂きました。余興として会員のエッセイスト武部好伸氏によるライブショーで場を盛り上げました。最初と最後は、もちろんラムゼイパイプバンドのバグパイプ演奏です。「Auld Lang Syne」をバグパイプ演奏にあわせて、Ms Fraserに歌って頂きながら、皆で手をつないで歌って盛り上がり、お開きとなりました。

関西支部は他の団体との交流を大切にしており、その一部を紹介します。ひとつは4月に行った関西セントアンドリュース協会(KSAS)との合同花見昼食会です。KSASのThomas 井塚氏にご協力いただき、神戸・元町の「神戸外国倶楽部」のテラスで行いました。井塚氏のRobert BurnsのSelkirk Graceのお祈りで始まった昼食の後、さらに室内に移り歓談とウイスキーなどを楽しみました。

もうひとつは5月の「スコットランドナイト」です。からすま京都ホテルのイベントを後援したもので、関会長・山口副会長にもご参加頂き、スコットランド産のビールと料理と共に、迫力あるラムゼイパイプバンドのバグパイプ生演奏とレズニー・デニストンさんのスコットランド民謡とRobert Burnsの詩の朗読を堪能しました。

JSA 九州

今年も7月11日に8月に宮崎公立大学の学生が田原祥子さんはじめ3名と9月からの長期公費留学生戸田光紀さんがスターリング大学に留学するため、現地における生活の事前研修会を行いました。中山教授にも御立ち合いいただきました。

9月27日にJSA会員の日高晃氏のお店で行われた「タンゴ演奏会」にJSA会員が6名集まりました。その時に丁度宮崎を訪れておられた、スターリング大学のマコーマック学長の奥様ルイズさんと息子のジェームズ君をお誘いしました。29日はお二人と共に宮崎公立大学林学長を学長室に訪ねました。



JSA 中国

7月18日、国の重要文化財として指定されている「旧下関英国領事館」が、5年にわたる保存修理工事を終えてリニューアルオープンしました。

山口県下関市教育委員会教育部文化財保護課からこのオープン式典に、ぜひハイランド・バグパイプの演奏をと木村中国支部長へ依頼が入り、中国支部理事でありバグパイプ演奏者の杉山氏が快諾。式典に華を添える事となりました。幕末の下関は長州藩。明治維新に関わる英国と長州藩の間に立ったのがトーマス・グラバーでもある事から、この機会にそのグラバー氏の故郷スコットランドのハイランド・バグパイプを演奏する団体「長崎グラバー・パイプバンド」にもご協力頂き、複数のバグパイプの音調を下関の空の下に響かす事が出来ました。



Two Whisky Bars ～Edinburgh Now～

片桐宏典

Craigellachie に向かってエジンバラから車を飛ばした。たっぷりの自然に囲まれた小さな街。Highlander Inn の二階の閑静な広い部屋に荷物を置いて、関会長、ケイトと僕の三人は評判の夕食を味わったあと、さっそく 440 本のボトルが立ち並ぶ Whisky Bar 移ってウィスキーを注文する。メニューには木のトレイに並んだ 6 種類のウィスキーを割安に楽しむという嬉しいセットもある。ボトルにまつわる話や蘊蓄を知識豊富なバーテンダーたちが喜々として聞かせてくれる。他の客とも意気投合し、楽しい宵はあっという間だ。

実はその前日、僕ら三人は Grouse Inn というもう一軒の Whisky Bar にも寄っている。Craigellachie に向かう途上、Dufftown の手前、偶然、通りかかったので入ってみた。噂は聞いていた。自然の中にぽつんと一軒、まるで「注文の多い料理店」。700 本のボトルが壮観である。そのうち 100 本は昨年亡くなったオーナーの特別コレクションで海外からもコレクターが欲しいと買いに来るが、これは売り物じゃない、と奥さんのウィルマは一蹴する。

後日、僕は作家仲間 5 人とまた Grouse Inn に行った。だが週末だというのにドアは閉まって真っ暗、いくらノックしても返事がない。臨時休業の張り紙があった。僕らは落胆し帰ろうとしたら、突然ドアが開いて娘のメリーがひょっこり顔を出した。のんびりシャワーを浴びていたらしい彼女は、まともな食事は出せないわよと言いながら、休みを返上し、僕らのために店を開いてくれた。

まだ薄暗い店内で、待ちに待ったウィスキーを彼女は次々にグラスに注いでくれる。彼女がサービスで作ってくれたサンドイッチやカップケーキを頬張りながら、片っ端からテイस्टینگしていった。さて、すべてを味わうには何年かかるだろう。



写真：左から Kate Thomson 理事、Highlander Inn オーナーの Duncan Elphick 氏、関妙子会長

ネス湖畔で卒業式

武部好伸

スコットランド独立ならず、英国（連合王国）に留まる——。9 月 18 日の住民投票。スコットランドがこれほど世界の耳目を集めたことは近年、なかったと思います。スコットランドは紛れもなく 1 つの国であり、英国は文字通りイングランド、スコットランド、ウェールズ、北アイルランドの連合体であることを改めて認識しました。

独立賛成が 45% も占めた現実を英国政府は真摯に受け止めねばならないでしょうね。国際都市の首都ロンドンを抱えるイングランドだけを重視せず、地方への目配りが必要です。国情は違えども、日本でも首都圏だけを見ては良くないと思いました。ぼくは当事者ではないので、とやかく言えません。投票結果のいかんに関わらず、住民（国民）の意思決定を尊重したいので、〈英国のスコットランド〉として健全に歩んでももらいたいと心から願っています。

その投票日、ぼくは非常に懐かしい写真を感慨深げに眺めていました。1978 年 3 月末の撮影。36 年前、大学 4 年生の時です。ちょっぴり長めの髪に口ひげを生やしています（今でもそうですが！）。ビートルズの中で一番好きだったジョージ・ハリソンを多分に意識していました。自分では少し似ているなあと考えていたのですが……。

後ろの湖は琵琶湖と違います。スコットランドのネス湖です。廃墟と化した建物はアーカート城。細長い湖のほぼ真ん中に位置している絶好の眺望ポイントですね。卒業旅行という名目で、1 か月ほどヨーロッパ各地と北アフリカのモロッコを 1 人で放浪していました。モロッコからロンドンのヒースロー空港に入国した時、赤軍派のメンバーかドラッグ中毒のヒッピーと思われたのか、入国管理官に過剰なほどチェックされました。今なら人権侵害ものです。腹が立って仕方がなかった。そこで気分転換に足を向けたのがスコットランドでした。生まれて初めての訪問地です。当時、スコットランド＝怪獣ネッシーというイメージを強く抱いていたので、ネス湖にやって来たというわけ。湖畔に腰をおろし、「怪獣、出てけえへんかなあ」とぼんやり湖面を見つめていました。周りには誰もいません。不気味なほどの静寂。時折、陽光が降り注いできたものの、底冷えのする寒い日でした。



写真：筆者 ネス湖畔にて

こういう時にうってつけのものがあります。そう、ウィスキー。インバネスの酒屋で買ったスコッチのポケット瓶を取り出し、ボトルのキャップに琥珀色の液体を注いでちびちびやっていました。と、その時、ふと思い出したんです。「そや、今日、大学の卒業式やった！」

完全に忘れていた。ほんま、ええ加減な学生です。しゃあない、こうなれば、開き直るのみ。ウィスキーを満たしたキャップを日本の方向（？）にかざし、大声で叫びました。「卒業、おめでとう！！」

グビリと飲み干した学生時代最後のウィスキー。じんわりと心に染み入り、実にええ塩梅でした。この時以来、スコットランドとご縁ができました。

スコットランド独立 現地レポート

橋本昂広

2014年9月17日午後9時、グラスゴーキーンズストリート駅。眠気眼で列車を降りた私は地鳴りの様な喚声に目を覚ました。駅前のジョージスクエアには溢れんばかりの民衆が集い、大小無数のセントアンドリュースクロスが靡く。Yes 派の集会である。その中では私と同世代であろう大勢の若者が声をあげていた。人生で財産を築いた年配の世代が保守的であるのに対し変化を恐れない若い世代が Yes へ回ったのだ。

Yes は質、量ともに No に優っていた。(私にはそう見えた。) 独立を主張するユニークな落書きやフォークソング、ストリートパフォーマンス。通りには Yes のバッジやステッカーを付けた人々が闊歩し、装飾された車が走り抜ける。私は彼らのアピールに何処かお祭騒ぎの様な一抹の稚拙さと粗暴さをも感じたが、若者の「柔軟性」が運動をよりカジュアルに親しみやすくし、「体力」が運動を持続化、活発化させ可視化に繋がったことは必ずしも否定出来ない。



その夜は Yes と信じる彼らにとって“イギリス人”である最後の夜であったのだ。その凄まじいエネルギーを前にして、研究をする立場にあくまで冷静な視点を保ってきた私でも「これは独立する」と思わずにいらなかった。しかし、9月19日のジョージスクエアは静かだった。

倫弘のウイスキー四方山話 2



台湾のウイスキー Kavalan(カバラン)が日本でも知られつつある。経営するのは金車グループという台湾の飲料メーカー。生産開始は2008年とのことだが、

既にいろんな賞を受賞しているし、飲んでみる味も。興味を湧いたので、見学に訪れた。宜蘭にある広い敷地に、まだ新しく大きな建物群があって、周りは芝生の緑で覆われていた。製造棟には蒸溜所のシンボルのパゴタ屋根が2つあり、スコッチの蒸溜所を思わせる。スコットランドから導入したという蒸溜釜は初溜・再溜が2基ずつ。貯蔵庫はスコッチの多くの蒸溜所とは異なるパラタイズ方式(縦置き)で、この点は風土に合わせた工夫なのかもしれない。

蒸溜所でパゴタ屋根は麦芽を乾燥させるキルン棟に使われる。だがこの蒸溜所は製麦を行っていない。実際にパゴタ屋根の直下のあたりは蒸溜釜が設置されていた。伝統的な蒸溜所の外観に似せるためにパゴタ屋根を建設したのだろう。製造技術だけでなく風景までも取り入れるのは、スコットランド好きには好感がもてた。機会があればこの風景の中でバグパイプを演奏してみたいものだ。

Size matters ~Edinburgh Then~

Kate Thomson

When I was at school in Edinburgh, uniform was strictly enforced.

Naturally we tried to personalise our uniforms instead of resembling obedient clones. The Headmistress would make us kneel on the floor while she came round with a ruler to check our tie knots were regulation 3 cm, and our skirts were not so long they touched the floor or more than 3 cm off the floor. When mini skirts were still in fashion we tucked excess length into our waistbands, so there would be a frantic ripple along the lines of girls trying to pull skirts back down before she reached us. When long skirts came into fashion the same ripple adjusted the extra material the opposite way.

I grew fast, 180 cm tall by the age of 14. A new uniform every year was too expensive (even at the more affordable second hand exchange shop run by the PTA). So my mother bought me an extra large blazer to grow into. I protested its enormous shoulders and long arms made me look like a gorilla. Terrible timing - we were merging with our brother school - boys would see me like this!

I promptly stopped growing!

I was still the tallest in my year until the final term, when some of the boys finally caught up. Attempts to shrink by stooping only enhanced my lumping shyness. To add insult to injury my younger sisters, instead of suffering my hand me downs, had more flattering uniforms, as I never grew out of mine. Later, I did grow out of shyness and learned to walk tall.

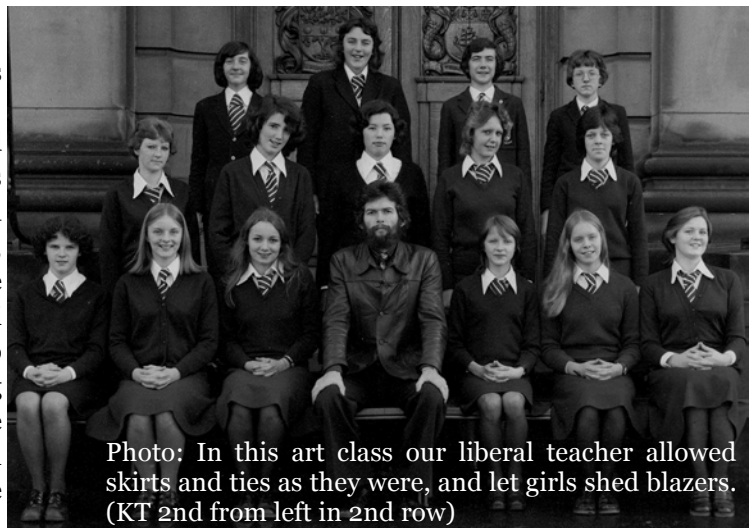


Photo: In this art class our liberal teacher allowed skirts and ties as they were, and let girls shed blazers. (KT 2nd from left in 2nd row)

Loiuse Johnston

I am delighted to be back again in Tokyo for this my third visit to Japan. The weather has been beautiful and has allowed me to explore the Ueno Park gardens and visit several of the wonderful museums there. I greatly enjoyed the Hokusai Exhibition at the Ueno Royal Museum and was very impressed by the large collection of Rodin sculptures at the National Museum of Western Art.

On Sunday I travelled to Hakone with my friend Taeko Seki to relax in a wonderful hot spa before visiting lake Ashi to see the spectacular views of the lake and Mount Fuji.

This coming weekend I am looking forward to the Highland Games. On the 6th of October an interview for NHK where I was asked various questions about the result of the recent Scottish Referendum on independence with Taeko Seki will be televised.

ルイーザ・ジョンストンさん：ダンディ大学で美術史を教えられ、退職後はアフリカ、タンザニアでの学校設立に力を注いでいらっしゃいます。画家としても活躍。

9月20日に来日1か月滞在、主に日本の美術館など、訪問されました。



Sue Hunt

Dr Taeko Seki and I have been colleagues at CELT at Stirling University for over 15 years, and friends for almost as long. Every year, Taeko has said ‘you must come to Japan’, and I have replied, ‘we will one day’. Last August, my husband Jamie and I decided that 2014 was going to be the year, and so we arrived in Tokyo on the morning of 4th August, to be met by Fumiko Shibata, a former student. She accompanied us to Taeko’s flat, our base for the duration of our visit, and thereafter our feet barely touched the ground.

Taeko had organised a wonderful introduction to Japan for us, which included a visit to Kamakura, to Nikko, to Hakone (our first hot spa), then onward to Kyoto, Hiroshima and Miyajima, before returning to Tokyo. Everywhere we went, we were met by former students, who had given up their time to be our guides – we could not have managed without them, and would like to send a special thank you to them all.

However, our biggest thank you is to Taeko, who not only gave us her flat, but spent time with us in Tokyo, invited us to her son’s house where Yuko gave us a delicious Japanese dinner, and organised a gathering of my former students – it was wonderful to see so many of them, now speaking English so well !! And I have to mention the interview for the newspaper on the Scottish referendum!

Memories : hot looseats, umbrellas and parasols, wires along the streets, delicious sushi, amazing department stores, but above all,

スー・ハントさん：スターリング大学で長く英語教師として勤められ、数多くの日本の学生がお世話になりました。9月4日ご主人のジェイミーさんと初来日、2週間旅行を楽しみました。

現在は、Scotland 唯一のサファリ・パークの経営をご家族とされています。



Loiuse McCormac

Japan is a fascinating country and I have been privileged to spend a few weeks exploring Tokyo, Miyazaki and the island of Kyushu. My mother was always interested in art. As a child I remember enjoying her book of Japanese art. The beautiful depictions of nature, Japanese society and Japanese culture were so simple yet on closer inspection held amazing detail - truly a feast for the eyes. To be able to see the landscape that inspired this art and experience modern Japan is a privilege. I would like to thank Dr Taeko Seki, Professor Hiroko Hayashi, Professor Masayuki Kumamoto, Mr Masato Maehara and the JSA for their very generous hospitality.



ルイーザ・マコーマックさん：Physiotherapistとして活躍。9月18日に来日、1か月ほど滞在。現在日本に留学中の息子さんと旅行を楽しんでいます。スターリング大学学長夫人でJSAの会員がこの3月にScotlandを訪れた際には、ご自宅での正式Dinnerに招いて下さいました。

JSA 会員紹介

株式会社 日高時計本店
代表取締役 日高 晃

九州宮崎で、主にスイス時計ブランド宝飾品販売を営んでいます。その関係で、スイス・フランス・ドイツ・イタリアにはよく訪れますが、スコットランドのエジンバラへは、観光で2回ほど訪れたでしょうか。

理事の前原さんとは同窓生で、いろんなまちづくりの活動とともにに行っています。彼が3年前、約1ヶ月間スコットランド研修旅行(女学生に囲まれての)へ一人で参加したのですが、そのとき関先生との出会いがきっかけとなり、翌年はロンドンオリンピックの年でしたので、4月に「宮崎ストリート音楽祭」で東京パイプバンドの参加が実現いたしました。今年も英国式庭園15周年記念で広島から杉山さんがバグパイプ演奏で駆けつけてくれます。こうした交流のなかでまちが育っていくことが何よりも嬉しいと感じる今日この頃です。



サインコス・グループおよび
スコティッシュ・アカデミーオーナー
教育者、作家

Maud Robertson Ramsay Nomiya



関西支部が料理や英会話教室等で

大変お世話になっているモードさんは、グラスゴー生まれ。DCE, ACE, NEF 資格取得。ラムゼイ市領主。1983年サインコス・スコティッシュ・コンサルタンツを設立。1988年スコットランドの伝統文化を紹介して日本との友好の絆を深めるため、関西ハイランド・ゲームズ協会を設立し、毎年神戸でハイランドゲームズを開催。2001年スコットランドと日本の文化交流に尽力した功績を認められ、英国MBE勲章をチャールズ皇太子より授与される。

最近の出版; "You Can Swim, but Can You Teach It?"
"You Can Speak English, but Can You Teach It?"
"The Power of the Pipes"



おしらせ

「第3回スコットランド・ツアー(2月23日~3月3日)」参加者募集

訪問先: スターリング大学 (Japanese Week 参加)、エディンバラ (世界遺産都市、エディンバラ城、美術館など)

グラスゴー (グラスゴー大学、大聖堂など)、ネス湖 (一泊旅行)、ウイスキー醸造所訪問など。

2月25日、26日、27日に開催される Japanese Week への参加もツアーの楽しみの一つです。

全行程参加できない場合、途中参加、早期の帰国も可能です。

その場合は滞在費など日数に応じて変わってきます。

経費: Flight 往復で15万円前後、宿泊日一泊20~25pounds

「スターリング大学春期英語研修(7週間:2月9日~3月27日)」参加者募集

7週間の英語コースで本格的に英語の習得を目指したい方ご参加ください。

18歳以上であれば、英語能力も年齢制限はありません。

クラブ活動に参加するなど現地の学生との交流が図れます。4, 5, 6週間の参加も可能です。

経費: 学費、寮費、週末旅行(エディンバラ、グラスゴー、セント・アンドリュース、ネス湖一泊)すべて含んで3960ポンド。

Flight と生活費(自炊で1週間5000円程度)は別途で支払いが必要です。

上記ツアーに興味のある方は気軽に連絡ください。会員のご家族、ご友人の方の参加も歓迎。

両イベントの期間、私(関妙子)も Stirling に滞在します。どちらも締め切りは11月30日です。

関 妙子(Stirling University: Honorary Doctor)

〒161-0033 新宿区下落合 3-12-28-1401 TEL/FAX 03-5988-8785 携帯 090-7192-4650 E-mail: taeko.seki@gmail.com

UNIVERSITY of
STIRLING



[本部・各支部イベントお知らせ]

@東京本部

・文化講演会及び奨学金生留学報告会 2015年1月24日(土)15時~17時早稲田大学国際会議場セミナールーム7
その後18時より大隈会館「楠亭」にて懇談会

・英会話教室: Discussion in English (毎月第2土曜日17時~19時、新宿区関会長宅)、
一般英会話(毎月第3土曜日15時~16時半、大田区山口副会長宅)

@関西支部

・本当のバーでお酒を飲みながら「英会話教室」2014年11月15日と2015年1月17日の各土曜日の午後実施予定。
・「スコットランド料理教室」2014年12月7日(日)料理の実習を通して、文化の違いを実感します。
・「Scottish Day in Kyoto」2014年11月8日・9日 スコットランドの「食」の文化を楽しみながら、「音」の文化に触れ、「知・教養」を深めようというものです。
・サントリー山崎で「ハワット記念イベント」を12月実施予定。

上記、詳細はJSA ホームページまたはFacebookにて連絡します。

編集後記

NPO 法人になり8カ月が経ちましたが、活発な活動を通して両国間の文化を交流させるパイプになっていると感じます。今号から編集メンバーが新しくなりました。このニュースレターで皆様とスコットランド愛をさらに共有できればと思います。



NPO 法人

日本スコットランド交流
協会



本文編集協力

真々田紫/後藤隆恭/柴田文子/齊藤七生/
堀内長太郎/関妙子/山口謙治/飯村英人

東京本部 〒161-0033 東京都新宿区下落合 3-12-28-1401, Tokyo Headquarters: 3-12-28-1401 Shimo-ochiai, Shinjuku-ku, Tokyo 161-0033

関西支部 〒560-0082 大阪府豊中市新千里東町 2-5-3-906, Kansai Branch: 2-5-3-906 Shin-senri, Higashi-machi, Toyonaka-shi, Osaka 560-0082

中国支部 〒730-0814 広島県広島市中区羽衣町 13-12, Chugoku Branch: 13-12 Hagoromo-cho, Naka-ku, Hiroshima 730-0814

九州支部 〒880-0032 宮崎県宮崎市霧島 2-23-2, Kyushu Branch: 2-23-2 Kirishima, Miyazaki-shi, Miyazaki 880-0032

東北支部 〒030-0196 青森県青森市合子沢山崎 153-4 青森公立大学 香取真理研究室 香取薫, Tohoku Branch: Kaoru Katori, Prof. Mari Katori's office, Aomori public University, 153-4 Yamazaki, Goshizawa, Aomori-shi, Aomori 030-0196